

2023 年度
事業報告

公益財団法人日本ナショナルトラスト

目次

I 現況	1
1. 事業	1
2. 役員	1
3. 評議員	2
4. 事務局	2
5. 事業資金	2
II 理事会・評議員会	3
1. 理事会	3
2. 評議員会	3
III 事業実施の概要	4
1. 調査事業	4
2. 保護事業	4
3. 支援事業	12
4. 普及事業	13
5. ネットワーク事業	17
6. 団体交流事業	18
7. その他	20
IV 登記事項、届出・報告・申請事項	20
参考 アドバイザー名簿、顧問名簿および観光資源専門委員名簿	21

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源(以下「保護対象」という。)の取得および管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想および知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集および提供
- (6) 政府および関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 2024年3月31日現在の役員

会 長 (代表理事)	安富 正文	東京地下鉄(株)顧問
副会長 (代表理事)	銭谷 眞美	(公財)新国立劇場運営財団理事長
理事長 (業務執行理事)	大庭 靖雄	常勤
副理事長 (業務執行理事)	中村 仁	(公財)日本ナショナルトラスト関西支部長
理 事	大路 洋司	西日本旅客鉄道(株)理事 東京本部長
理 事	小川 孝行	東京地下鉄(株)代表取締役 専務執行役員 鉄道本部長
理 事	苅谷 勇雅	元・文化庁文化財鑑査官
理 事	喜勢 陽一	東日本旅客鉄道(株)代表取締役副社長
理 事	最明 仁	(公社)日本観光振興協会理事長
理 事	榊原 篤	東海旅客鉄道(株)執行役員 営業本部長
理 事	柴崎 信三	元・日本経済新聞社論説委員
理 事	志村 格	(一社)日本旅行業協会参与
理 事	鈴木 雅和	筑波大学 芸術系 名誉教授
理 事	羽尾 一郎	(一社)日本民営鉄道協会理事長
理 事	降幡 賢一	日本エッセイスト・クラブ事務局長(元・朝日新聞社編集委員)
理 事	美里 隆司	(公財)日本交通公社理事 総務部長

理 事	廻 洋子	敬愛大学特任教授
理 事	森 まゆみ	作家

(以上理事 18 名)

監 事	今村 正	税理士
監 事	佐藤 栄治	(公財)鉄道弘済会専務理事

(以上監事 2 名)

3. 評議員

(1) 2024 年 3 月 31 日現在の評議員

評議員	大西 孝夫	元・(一財)休暇村協会理事長
評議員	蒲生 篤実	(独)国際観光振興機構理事長
評議員	黒野 匡彦	(一財)運輸総合研究所顧問
評議員	曾我 健	元・(公財)NHK交響楽団理事長
評議員	高橋 広行	(株)JTB代表取締役会長
評議員	堤 哲	元・毎日新聞編集委員
評議員	伏屋 和彦	元・会計検査院長(元・国税庁長官)
評議員	森地 茂	政策研究大学院大学客員教授名誉教授

(以上評議員 8 名)

4. 事務局

2024 年 3 月 31 日現在の職員 5 名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄付金並びに個人および団体からの会費等による。

II 理事会・評議員会

1. 理事会

- (1) 第1回理事会 2023年5月29日 午後2時より3時30分
開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
決議事項 2022年度事業報告、2022年度決算報告、2023年度定時評議員会提出議題
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、2023年度第2回理事会の開催
出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席15名、欠席3名。監事出席2名。
- (2) 第2回理事会 2023年6月21日 午前11時45分より12時15分
開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
決議事項 代表理事（会長）の選定、アドバイザーの委嘱、顧問の選任
出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席15名、欠席3名。監事出席2名。
- (3) 第3回理事会 2024年3月6日 午前10時より11時30分
開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル2階会議室
決議事項 2024年度事業計画、2024年度収支予算、2024年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩、評議員会の招集、支援事業について
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、ヘリテイジセンター「飛驒の匠文化館」の譲渡計画、2024年度第1回理事会の開催
出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席15名、欠席3名。監事出席2名。

2. 評議員会

- (1) 定時評議員会 2023年6月21日 午前10時～11時30分
開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル4階会議室
決議事項 2022年度事業報告、2022年度決算報告、評議員の選任、理事の選任
報告事項 2023年度事業計画、2023年度収支予算、2022年度第2回・第3回及び2023年度第1回理事会の決議事項
出席等 決議に必要な出席評議員の数4名、出席5名、欠席2名。代表理事出席2名、監事出席2名。

Ⅲ 事業実施の概要

新型コロナウイルス感染症による深刻な影響は過去のものとなり、本年度は例年の運営を行うことが出来た。各保護資産においては、季節の行事や特別公開等を積極的に開催するとともに、インスタグラムなどを活用して情報発信に努めた。入館者数やイベント参加者数は、新型コロナウイルス感染症流行前の実績には及ばないものの回復傾向にあり、参加者等からは好評の声を頂くことができた。さらに、各保護資産の価値を向上させるため、保存活用計画の更新作業や修理方針の策定を進めた。新たな支援事業については、前年度に内閣総理大臣より公益目的事業として追加することを認定されたが、本年度は、専門家で構成した支援事業準備会で検討を重ね、準備を行った。1月26日には国の重要文化財である自由学園明日館で「東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト報告会『SEEDS OF FURUSATO～ふるさとの種を全国へ、そして未来へ～』」を開催した。この報告会では、復興支援の報告を行うと共に、新たな支援事業を紹介し、多くのJNT会員や関係者に周知することが出来た。以上の通り、本年度も将来に向けて事業基盤を充実させるため、(公財)日本ナショナルトラスト(以下、「JNT」)役職員が一丸となってその業務に取り組んだ。

1. 調査事業

(1) 観光資源保護調査フォローアップ(滋賀県蒲生郡日野町)

2000年に観光資源保護調査を実施した滋賀県蒲生郡日野町を対象としてフォローアップ調査を行った。職員が副町長等と面談し、現在のまちづくりや観光資源の活用状況等についてヒアリングを行った。

2. 保護事業

(1) 文化財取得保護計画に基づく保護事業

① 白川郷合掌造民家の修復と管理運営 (岐阜県白川村)

旧松井家の管理を引き受けている白川ボックスが、7月24日に総会を開催した。また、9月4日に、理事長と職員が参加して、白川郷合掌文化館および旧寺口家管理運営委員会が開催され、前年度の事業報告と本年度の事業計画について異議なく承認された。また、本年度は新型コロナウイルス感染症の流行前のような形で白川村荻町祭礼(どぶろく祭り)が開催された。当日は職員が参加し、地元との交流を深めた。旧寺口家の屋根が傷んできたため前年度に片面の差し茅を行った。本年度は、9月30日にもう片面の差し茅を行って健全な状態を保った。

《管理運営委員会の構成》

大田忠広・JNT 白川ボックス代表、野谷信二・白川郷荻町集落の自然環境を守る
会会長、和田茂・JNT 白川ボックス事務局、川田裕・白川村老人クラブ長生会会
長、宮丸和之・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授、JNT 他
* 旧松井家 貸館 3 件

②動態保存車両(トラストトレイン)の運行と修理 (静岡県大井川鐵道)

本年度は全 4 回のトラストトレインの運行を実施し、延べ 47 人のボランティアが参
加した。例年通り 5 回の運行を計画したが、大井川鐵道で 11 月 28 日に発生した事
故(電気機関車と客車の連結器が走行中に外れ緊急停車)の影響により、12 月 2 日
に予定していた運行と、毎年冬に実施するボランティア活動(客車の清掃および安全
講習の実施)を中止した。

10 月 14 日は親子ボランティアを実施し、親子を含む 20 名が参加した。当日は S L
運転台乗車体験、車両区見学、S L・E L 乗車、車内アナウンス体験、駅舎見学など
の豊富な体験プログラムを実施し、好評であった。またボランティアの協力を得て本
件のプレスリリースを行ったところ、静岡新聞に当日の報告記事が掲載された。

本年度は、新規ボランティア獲得のために前年度開設したインスタグラムを活用し
て積極的に情報発信を行い、他団体との連携も進めた。このような活動を反映して、
運行日のボランティア参加者数が少しずつ増加している。2 月に大井川鐵道(株)と開
催した運営会議では、本年度の活動報告、来年度の活動計画等を議題として協議を行
った。

* 運行日活動 4 月 22 日(5 名)、9 月 16 日(12 名)、10 月 14 日(20 名)、1 月
27 日(10 名)

③名勝旧大乘院庭園保存整備と管理事業 (奈良県奈良市)

6 月 30 日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告および本年度事業計画につ
いての審議を行った。また、同日に管理協議会を開催し、より具体的な協議を行っ
た。維持管理については、例年実施している維持管理作業に加えて、良好な景観を
維持し、来園者の安全を確保するために、枯損したイヌマキの伐採、イロハモミジ
の支柱設置やロープ柵の更新・撤去等を追加して行った。公開日の巡回中に、天神
島のクロマツの頬杖支柱が腐食によって破損し、マツの幹が着水していることが確
認された。景観上問題がありマツの成育にも悪影響を及ぼすことから、早急に修理
の準備を進め、観月の夕べに間に合うよう 9 月 25 日に支柱の更新等を行った。活用
については、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、なら燈
花会、関西文化の日のイベントに参画することが出来た。観月の夕べについても、
参加者数を制限せず、お茶会もコロナ以前の規模で行い、146 名の方に参加いただ

いた。また、ロケーション撮影の利用が引き続き好調であった。適切な利用料を検討し、利用料の改定を行った。

《保護管理委員会の構成》

尼崎博正・京都芸術大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、本中眞・奈良文化財研究所所長(JNT 観光資源専門委員)・奈良県、奈良市、西日本旅客鉄道(株)、JNT 他

* 入園者数 13,347 名(公開日数 301 日)、ロケーション利用等 55 件

* 奈良県および奈良市補助事業

④東京都指定名勝旧安田楠雄邸庭園の修理と管理活用事業(東京都文京区)

7月25日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告を行った。本年度の事業計画では、保存活用計画の更新などについて諮り、異議なく承認された。保存活用計画の更新作業を進めるため、庭園の現況調査や資料調査、類似事例の調査を行った。調査結果をもとに、保存活用計画更新検討WGでは旧安田楠雄邸庭園の価値、庭園の復元方針、保存活用の方向性等について協議した。建物の保護管理については、主庭の袖垣の腐朽が激しく、2月に新設工事を実施した。管理活用の面では、定例の活用WG会議を半年に1回程度開催した。特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会(通称:たてももの応援団)や専門家と協議しつつ、五節句行事等の実施や貸館等による活用に努めた。その他、7月1日から8月末までの期間、文京区が実施する「文京ミュージズネット周遊デジタルカードラリー」に協力した。また、12月19日に清澄庭園で開催された第10回東京の日本庭園おもてなし協議会(主催:東京都建設局公園緑地部)に職員が出席し、都内の文化財庭園の担当者と意見交換を行った。東京都が実施する東京文化財ウィークや東京いい庭キャンペーンにも参加し、自治体による文化的活動に協力した。東京文化財ウィークでは、団子坂の歴史に着目し、「江戸園芸のいろは〜団子坂の菊人形」をテーマに、菊人形の再現や展示、まちあるきなど充実したプログラムを実施した(5日間で328人が参加)。

3月21日には、観光庁が旧安田楠雄邸庭園を貸切利用し、『「旧安田楠雄邸庭園」の高付加価値化に向けた実証』としたイベントを実施した。この文化遺産が積極的に活用されていることに着目して計画されたものであり、観光業界関係者・報道関係者向けの広報も行われた。JNTは当企画の実施に協力し、しだれ桜の観賞、薩摩琵琶の演奏、邸内・園路散策、防空壕見学等の準備を行った。

このように、様々な主体と連携し、管理活用を行った。その他、旧安田楠雄邸庭園の管理を受託している特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会がインスタグラムを開設して情報発信を行った。

《保護管理委員会の構成》

井手久登・東京大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授、内田青蔵・神奈川大学特任教授、服部勉・東京農業大学教授、JNT 他

* 東京都補助事業

* 一般公開 5,983 名(公開日数 110 日)、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 262 件

⑤京都市指定文化財駒井家住宅の修理と管理活用事業 (京都府京都市)

6月6日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画を諮り、異議なく承認された。駒井家住宅の修理方針の策定のため、書籍等による調査のほか、特に老朽化が進んでいる離れについて構造等の調査を実施し、修理および活用の方向性を検討した。管理活用の面では、定例のWG会議を2~3ヵ月に1回程度開催した。6月30日に強風により温室ドアのガラスが破損する事故が発生した。応急処置を施した後、8月30日に修理を行った。庭園の管理については、4月20日に京都芸術大学の造園実習を受け入れ、同大学尼崎博正名誉教授(JNT 観光資源専門委員)指導のもとで学生が剪定等を行った。公開、活用に関しては、引き続きガーデンヨガを月1~2回程度実施した(参加費はロールスクリーンを修理する費用としてJNTに寄付される)。その他、京都市観光協会等と連携して実施した東華菜館・駒井家住宅・旧三井家下鴨別邸による3館共通見学会「京都に遺る近代建築 和洋の美」、前年度も実施した「チャリティージャズコンサート with 蓑輪裕之トリオ」、春の特別公開(連続公開)など、積極的にイベントを開催して活用に努めた。また、本年度は初めて「京都モダン建築祭」(駒井家住宅&山口書店ツアー)に参加し、多くの方に駒井家を見学して頂いた。

《保護管理委員会の構成》

山形政昭・大阪芸術大学名誉教授、尼崎博正・京都芸術大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、石田忠範・石田忠範建築研究所主宰、西川完途・京都大学大学院教授、三村浩史・京都大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、吉田友彦・立命館大学教授、JNT 他

* 京都市補助事業

* 一般公開 1,232 名(公開日数 73 日)、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 38 件

⑥文化財取得保護計画募金計画の継続

各保護資産の適切な維持管理および利活用の促進を目指した修復等を実施するため、文化財取得保護計画に沿って、経済界をはじめ関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

(2) その他の保護事業

①天心遺跡記念公園および天心墓地の保護管理(茨城県北茨城市)

7月19日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について承認が得られた。維持管理については、例年通り北茨城市から維持管理のための補助金交付を受け、年間の維持管理業務を(公社)北茨城市シルバー人材センターに委託した。天心遺跡記念公園においては、定期的な除草や清掃作業、天心墓地では、除草作業と月2回の点検および供花を行った。そのほか、10月に天心遺跡記念公園内の倒木の危険性のあるマツ等の伐採を行った。6月23日から7月17日の期間で、再興第107回院展茨城五浦展が開催された。6月22日にはそのオープニングセレモニーが開催され、理事長が出席した(主催:茨城県天心記念五浦美術館)。9月2日に天心墓地で天心忌が開催されたほか、10月21日から22日にかけて五浦で天心ゆかりの地(福井県福井市、神奈川県横浜市、茨城県北茨城市、新潟県妙高市)の各顕彰会からなる天心サミットが7年ぶりに開催され、事務局長が出席した(主催:五浦日本美術院岡倉天心偉績顕彰会、他)。

《保護管理委員会の構成》

豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城県立天心記念五浦美術館館長、片口直樹・茨城大学五浦美術文化研究所所長、JNT 他

*北茨城市補助事業

②ED70形1号交流電気機関車の保護管理(滋賀県長浜市)

西日本旅客鉄道(株)から寄贈されたED70形1号交流電気機関車について、長浜市民やボランティアの協力を得て保護管理を行い、広く一般に公開している。

③巻機山の景観保全(新潟県南魚沼市)

東京農業大学と連携した植生復元のためのボランティア活動として、種子採取・播種、木道脇の緑化ネット設置作業や客土などを実施した。

活動実施日:8月20日~21日

参加者数:11名

④東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクトの報告会

1月26日に重要文化財の自由学園明日館で「東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト報告会『SEEDS OF FURUSATO~ふるさとの種を全国へ、そして未来へ~』」を開催した。報告会の前に開催した会員の集いには、永年会員表彰対象者274名のうち、20名の会員が出席し、会長から表彰状と記念品を授与された。報告会では、復興支援の成果について披露するとともに、本事業の賛同者である俳優の竹下景子さん(JNT 永年会員)の参加を得てトークイベントを開催した。当日は関係官

庁の幹部、JNT 会員、一般参加者など合わせて 100 名以上が出席し、懇親会も大きな盛り上がりを見せ好評であった。またその翌日には、報告会の関連企画「ふるさとの種をめぐる～旧安田楠雄邸庭園と園芸文化をたどるまち歩き～」と題して、旧安田邸の見学とその周辺のまち歩きを行い、13 名が参加した。イベント当日に JNT が取材を受け、報告会の内容が交通新聞および週刊観光経済新聞によって報道された。

—プログラム—

<26 日>

ア) 会員の集い (永年会員表彰)

イ) 報告会

オープニングアクト：浦浜念仏剣舞 (岩手県大船渡市)

トークイベント：JNT 永久会員・竹下景子さんに聞く
～ふるさとへの思いをつなぐ～

SOF 事業紹介

SOF 成果報告と支援対象地域からの事例紹介

(報告事例)

- ・「千田家」「三事堂ささ木店舗」宮城県気仙沼市
- ・「天野家住宅」福島県南相馬市
- ・「旧矢中家住宅」茨城県つくば市
- ・「浦浜念仏剣舞」岩手県大船渡市

支援事業の紹介

懇親会

<27 日>

ア) 園芸文化をたどるまち歩き

イ) 旧安田楠雄邸庭園見学会

(3) ヘリテイジセンターの管理運営

① 葛城の道歴史文化館の管理運営 (奈良県御所市)

当文化館には葛城の道散策マップや街道の神社・仏閣に関する資料、伝統行事の写真などが展示されており、葛城古道を散策するための情報拠点となっている。また、館内には休憩所と集会所を備え、住民と来訪者が交流し、歴史を活かしたまちづくりや歴史環境の保全について考える場としても活用されている。

(入館者数 8,329 名)

② 飛騨の匠文化館の管理運営 (岐阜県飛騨市)

市内の小・中学生や、静岡県、愛知県、台湾などから学生が見学に訪れた。匠塾出張学習会「森の学習会」では、市内3校の約160人が受講し、地元の大工から森に関する座学や椅子作りを学んだ。また、(公社)日本青年会議所東海地区第64回岐阜ブロック大会2023協議会主催の「ぎふ Craft フェスタ」に参加しウインドチャイムやモビール飾り製作ブースを出した。飛騨地方で採れる広葉樹や生息する動物、町の特徴・魅力を、木製のパーツを利用してPRした。

飛騨市が、飛騨の匠文化館を今後のまちづくりに活用することを検討している。JNTは飛騨市からこの施設の移管の申し入れを受けた。2024年度の譲渡契約締結に向け、調整を進めてきた。関連して、3月3日に飛騨市主催の飛騨の匠文化館リニューアル検討委員会が開催され、職員が委員として出席した。

(入館者数 5,698名)

③白川郷合掌文化館(旧松井家)の管理運営 (岐阜県白川村)

白川村在住のJNT会員によって組織されている白川ボックスと管理業務委託契約を締結しており、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施した。7月24日には白川ボックス総会を開催した。本年度は、新型コロナウイルス感染症流行によって中止していた夏季一般公開を再開した。195名が白川郷合掌文化館を見学した。

(入館者数 195名)

④名勝大乘院庭園文化館の管理運営 (奈良県奈良市)

今年度も「観月の夕べ」や「珠光茶会」が開催された。館内では、当文化館主催の「二十四節気書画展」が開催されたほか、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の協力を得て開催された「描かれた大乘院庭園 資料展」、「発掘された庭園～つちに埋もれた古の庭～資料展」、奈良市美術館ミニ出張展示「戦前の絵葉書から見る奈良の世界遺産 写真展」が開催された。そのほか、10月25日に管理運営委員会が開催され、副理事長と職員が出席した。

(入館者数 29,407名)

⑤長浜鉄道文化館の管理運営 (滋賀県長浜市)

年間を通じて長浜の鉄道史を紹介するなど、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を発揮した。企画展「駅弁掛紙でたどる家康」(4月8日～6月30日)では、大河ドラマ「どうする家康」に合わせて、長浜鉄道スクエア所蔵の弁当掛紙から徳川家康の生涯をたどった。「OM SYSTEM 鉄道ファンイベント in 長浜高屋力写真展」(9月2日～9月24日)では、鉄道写真家の高屋氏の写真を50点以上展示し、北陸本線の美しい風景も楽しんでもらうことができた。また、「TRAIN ART 展 in ながは

ま」(10月2日～12月28日)では、様々な手法で表現された鉄道アートを展示したほか、ギャラリートークやアーティストによるワークショップを実施した。

(入館者数 48,353名) *長浜スクエアとしての入館者数

⑥琴引浜鳴き砂文化館の管理運営 (京都府京丹後市)

本年度も写真展や貝がら手作り体験等多様な催しを実施した。「標本展 アサギマダラ&世界のマダラチョウ特別展」(5月15日～6月18日)、「写真展 フォト丹後」(1月15日～2月26日)が開催されたほか、修学旅行や社会見学を13件受け入れた。また、京丹後市内全小学校6年生を対象とした「大地の学習」で18校が来館し、鳴き砂の鳴く仕組みや漂着物・岩石の種類や性質などを学んだ。

(入館者数 7,936名)

⑦北陸線電化記念館の管理運営 (滋賀県長浜市)

当記念館ではD51形蒸気機関車とED70形1号交流電気機関車を通年公開するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。12月17日には、「長浜鉄道スクエアクリスマスイベント2023」が開催され、ED70探検ツアーやD51汽笛吹鳴体験が行われた。(一財)日本宝くじ協会の助成制度により、200万円の助成を得られることになった。長浜市と協力し準備を進め、1月に映像投影設備の設置工事を完了した。これにより来館者は、ED70の窓にプロジェクションマッピングで投影した風景を眺めることが出来、運転室に入ると実際に乗車しているような体験をすることができるようになった。

(入館者数 48,353名) *長浜スクエアとしての入館者

⑧村上歴史文化館の管理運営 (新潟県村上市)

当文化館は、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を發揮し、本年度は「村上市の縄文時代展」(12月2日～2月25日)が開催された。また、恒例となった「城下町村上に伝わるひな人形展」(3月1日～4月7日)は第40回を迎えた。享保年間から昭和に至る時代の雛人形が展示されたほか、隣接する村上市郷土資料館や若林家住宅でもひな人形が展示された。

(入館者数 9,719名)

⑨四国鉄道文化館の管理運営 (愛媛県西条市)

当文化館(北館と南館)は、十河信二記念館、観光交流センターとともに形成される「鉄道歴史パーク in SAIJO」として、地域の賑わいの拠点となっている。毎月1度開催している「おそうじ&勉強会」では、月ごとに掃除する車両と勉強会のテーマを変え、様々な体験、発見が出来る工夫を行っている。隣接するJR四国予讃線から

分岐された軌道を活用した軌道自転車体験運転会や、ミニSL専用の軌道上を走行するミニSL乗車会など、体験型のプログラムも好評を得ている。「伊予西条鉄道フェスタ2023」（12月2日、3日）では特別車両の展示や鉄道模型走行会の他、駅前マルシェも開催された。2日間の参加者は1,818名であった。
(入館者数46,242名)

3. 支援事業

当財団の新たな事業である支援事業に関し、その円滑かつ効果的な推進のために、専門家で構成する支援事業準備会を設置した。全4回の会議を開催し、事業の方向性やスキームについて検討を行い、その結果を支援事業準備会報告書にとりまとめた。この準備会は、その役割を終えたので、3月末に解散した。

各事業の実施状況については次の通り。

(1) 地域遺産支援事業

① 地域の課題・ニーズのヒアリング調査

関係団体や地域にヒアリング調査を行い、地域の課題やニーズ等を把握した。

② 地域遺産支援プログラム パイロット事業の実施

ア) 岐阜県大野郡白川村

5月31日に本年度最初のかややね会議を開催した。これまでは、「村内における茅の自給率向上」を目的に掲げ活動してきたが、本年度からは、「白川村の環境保全」というより広い事業を展開することとした。5月のかややね会議当日は、これまでのプロジェクトを振り返りつつ、村役場の職員等から白川村の自然環境などのレクチャーを受けた（オンライン参加を含め38名が参加）。そのほか、5月20日に白川村荻町近くの集落で開催された「芽吹きドキドキマルシェ」に出店し、職員が茅ほうきづくりのレクチャーや活動のPRを行った。11月4日、5日は、恒例となったイベント・秋の一斉茅刈りを実施した。本年度は受入れ体制の関係で一般参加者の参加者数を限定し、村民を合わせて45人が参加した。茅刈りの翌日には、オギという植物を用いて、雪から家屋を守るための雪囲い（オダレ）作りの体験プログラムを実施した。

イ) 山梨県甲州市上条集落

7月8日にじゃがいも収穫体験会が開催され、職員が運営支援を行った。その他、住民団体「上条を活性化する会」と連携し、地域の魅力を発信するためのマップを作成した。

ウ) 大分県臼杵市

(一社) 臼杵のんき屋が提案し申請した事業「ナショナルトラスト・ワーキングホリデー～歴史的建造物に学ぶ、直す、泊まる～」が、観光庁の「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」に採択された。JNTはこの社団法人の事業に外部連携先として協力を行った。

(2) その他支援事業

①相談窓口の開設 (1月29日)

②東京都墨田区京島における事業協力

東京都墨田区京島で長屋のサブリース等を手掛ける暇と梅爺(株)が申請した事業が、国土交通省の「住宅ストック維持・向上促進事業」に採択された。JNTはこの企業からコーディネーター業務を一部受託し、歴史的建造物のデータベース作成に関する調査に協力した。9月23日、11月22日、12月16日、1月19日に江戸長屋バリューファイナンス事業検討委員会が開催され、職員がオブザーバーとして出席した。

(3) その他

(一財)ハウジングアンドコミュニティ財団の事業に、職員が選考委員として協力した。5月20日に開催された第7回地域交流会 in 長岡市撰田屋と、7月22日に開催された第6回住まい活動助成事業研究交流会「地域で解く 市民が挑む 住み継がれる住まいまちづくりの取り組み」に出席した。また、2月には、次年度の採択地域の選考を行う選考会に出席した。

4. 普及事業

(1) 会員事業

①見学会・催し物等の開催

ア) トラストトレイン

・トラストトレイン運行日およびボランティア参加者数

4月22日、9月16日、10月14日、1月27日 (延べ47名が参加)

※10月14日は親子ボランティア (20名が参加)

※12月2日に予定していた運行と、例年冬に実施するボランティア活動 (客車の清掃および安全講習の実施) は、大井川鐵道で11月28日に発生した事故の影響により中止した。

イ) 旧安田楠雄邸庭園

・主催イベント

4月2日 花見と踊り

- 4月8日・・・・・・・・・・・・・防空壕公開
- 4月15日、19日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 4月29日、30日、5月3日～6日・・・・端午の節句 ※連続公開
- 6月11日・・・・・・・・・・・・・福楽寄席
- 6月17日、21日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 7月1日、5日・・・・・・・・・・・・・七夕飾り
- 7月9日・・・・・・・・・・・・・新内節で語る名作
- 7月15日、19日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 7月の公開日・・・・・・・・・・・・・台所特別開放
- 8月5日・・・・・・・・・・・・・防空壕公開
- 9月16日、20日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 9月24日・・・・・・・・・・・・・ひとり語り 白浪看板
- 10月7日、11日、14日、18日・・・・重陽の節句（「菊のきせ綿」飾り等）
- 10月18日、21日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 1月6日～31日の公開日・・・・・・・・人日の節句（お正月の玩具展示）
- 2月17日、21日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 2月28日～3月3日、6日、9日・・・・上巳の節句
- 3月31日・・・・・・・・・・・・・しだれ桜と琵琶の音
- ・その他イベント
- 11月22日～26日・・・・・・東京文化財ウィーク企画事業
江戸園芸のいろは～団子坂の菊人形 ※連続公開
（展示、菊人形の菊つけ体験など）
- 11月29日、12月2日、6日、9日・・・・秋の東京いい庭キャンペーン
（園路開放）
- 3月23日、27日、30日、4月3日・・・・春の東京いい庭キャンペーン
（園路開放）

ウ) 駒井家住宅

- ・主催イベント
- 月1～2回程度・・・・・・・・・・ガーデンヨガ
※参加費はロールスクリーンを修理する費用として
JNTに寄付される。
- 4月19日・6月14日・・・・3館共通見学会「京都に遺る近代建築 和洋の美」
東華菜館 × 駒井家住宅 × 旧三井家下鴨別邸
- 10月1日・・・・・・・・・・チャリティージャズコンサート with 蓑輪裕之トリオ
- 2024年3月29日～31日、4月5日～7日・・・・春の特別公開（連続公開）

・その他イベント

10月6日～2024年9月28日・・・京都きものパスポート

主催：きものの似合うまち・京都実行委員会

10月6日～11月25日・・・近代化遺産 全国一斉公開 2023

主催：全国近代化遺産活用連絡協議会

11月5日・・・・・・・・・・京都モダン建築祭（駒井家住宅&山口書店ツアー）

主催：京都モダン建築祭実行委員会

（京都市、公益社団法人京都市観光協会ほか）

②会員活動の支援

会員による以下の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

ア)地域活動

白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理

4月14日・・・・・・・・・・・・・・・・棟つつみ

5月8日・・・・・・・・・・・・・・・・雪囲いはずし

7月24日・・・・・・・・・・・・・・・・清掃、総会

8月・・・・・・・・・・・・・・・・夏季開館

11月16日・・・・・・・・・・・・・・・・雪囲い

イ)サークル活動

民家・町並みサークル

情報発信を中心に活動を継続している。

11月26日・・・・・・・・・・「足袋のまち」埼玉県行田市の見学会

ウ)その他

10月7日に大阪で開催された「ブックフェスタ・ジャパン 2023」への会員の参加に協力を行った。この催しは、「本」をキーワードに、新たな出会いの場の創出と情報発信を目的としたもの。当日は参加した JNT 会員が、JNT を含めた歴史的建造物や景観・まち並みの保存利活用を推進している団体やイベントの関連書籍を紹介した。

③会員増加キャンペーンの実施

関連団体および企業の協力により、入会申込書の配布や設置等を行い、入会促進に努めた。また、期間限定で以下のキャンペーン等を行った。

ア) 初年度会費無料キャンペーン

1月1日から3月31日までに入会した方を対象として初年度会費および入会金を無料にするキャンペーンを実施した。

イ) プラスワンキャンペーン

4月1日から5月31日まで会員の紹介者に対して入会金無料および会報のバックナンバー無料などの特典を付与したキャンペーンを行い、積極的にPRを行った。

(2) 広報事業

① 会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布(隔月刊)

年間6回の発行で内容の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。

<体裁> B5 16頁 <発行部数> 2,100部

<通巻> 555号～560号

555号(5月1日発行) 特集「津軽の庭 『大石武学流庭園』のいま」

556号(7月1日発行) 特集「今年のしごと」

557号(9月1日発行) 特集「発酵・醸造のまち、長岡

～歴史的建造物が残る摂田屋・宮内のまちづくり」

558号(11月1日発行) 特集「若狭熊川宿の文化資源を生かしたまちづくり

～古民家ホテルからアウトドア施設まで～」

559号(1月1日発行) 特集「地域に愛される熊取交流センター煉瓦館

『旧中林綿布工場』の保存と再生」

560号(3月1日発行) 特集「東日本大震災自然・文化遺産復興支援プロジェクト報告会 SEEDS OF FURUSATO～『ふるさとの

種』を全国へ、そして未来へ～の開催」

② ウェブサイト、SNSでの情報発信

ウェブサイト等を積極的に活用し、会員やJNTに関心のある層への情報発信に努めた。ウェブサイトは随時修正を行い、フェイスブックはリアルタイムな発信を心掛け更新に努めた。会員の皆さまと双方向でつながるツールとして好評を得ており、現在、約800人がフォローしている。その他、各事業でフェイスブックやインスタグラムを開設しタイムリーな情報発信を行っている。

③ メールマガジンなどの普及宣伝ツールの活用

新型コロナウイルス感染症による深刻な影響は過去のものとなり、本年度は、各事業においてはほぼ例年通りにイベント等を実施することができた。そのためメ

ールマガジンを月1回の頻度で配信し、JNT や地域の関連情報を掲載するなど内容も改善しつつ、積極的に情報発信を行った。(登録者数 約 680 名)

④関係団体の広報協力

本年度も地下鉄博物館(東京都江戸川区)に JNT とトラストトレインのパンフレットおよびトラストトレインの維持修復を呼び掛ける募金箱を設置していただいた。また、JR 東日本をはじめとした多くの関係団体・企業の協力を得て、保護資産およびプロジェクトを含め、幅広く JNT の紹介を行っていただいた。駒井家住宅および旧大乘院庭園に関しては、JR 西日本や叡山電鉄から継続的に広報協力を得ることができた。そのほか、今年度新たに団体会員となったヴィスタコミュニケーションズ(株)の協力を得て、タクシーシェルターへ広告を掲載した。これは屋根付きタクシー乗り場に併設されたポスターフレーム型の屋外広告に JNT の事業紹介を行ったものである。

⑤その他

観光経済新聞 10 月 2 日号の「観光庁発足 15 周年記念特集」において、観光関係団体の一つとして広告を掲載した。

(3) その他普及事業

①他団体主催イベント等の後援

- ・「第 46 回全国町並みゼミ小樽大会」

主催：特定非営利活動法人全国町並み保存連盟

後援名義期間：承認の日～10 月 15 日

- ・「第 14 回 柳都新潟・古町花街イベント

花街保全の具体化を考える～景観計画区域特別区域の指定に向けて～」

主催：古町花街の会、新潟まち遺産の会

後援名義期間：承認の日～3 月 17 日

5. ネットワーク事業

(1) ヴォーリス建築文化全国ネットワーク

6 月 10 日～11 日に静岡県御殿場市で開催された総会などに職員が出席した。

(2) 全国近代化遺産活用連絡協議会

7月25日～27日に北葛城郡王寺町で総会と大会が開催され、職員が出席した。また、10月1日から11月30日に実施された「近代化遺産全国一斉公開2023」に駒井家住宅が参加した。(金土曜日の公開日)

(3)一般社団法人日本茅葺き文化協会

6月17日に総会およびフォーラムがオンラインで開催され、職員が出席した。

6. 団体交流事業

文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナル・トラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

(1)国内交流事業

①国内保護団体との連絡連携および情報の交換

ア)文化財指定庭園保護協議会

6月22日～23日に横浜市で総会が開催され、職員が出席し、情報交換と交流を行った。

イ)全国町並みゼミ(JNT 後援事業)

6月3日に全国町並みゼミイベントが東京都の谷中で開催され、職員が出席した。また、10月13～15日に開催された第46回全国町並みゼミ小樽大会に職員が出席し、支援事業の告知を行った。

ウ)全国伝統的建造物群保存地区協議会

5月22日～24日に丹波篠山市で総会および大会が開催され、職員が出席した。

エ)歴史的景観都市協議会

10月26日～27日に神奈川県小田原市で大会が開催され、職員が出席した。

②JNTが参加登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(公財)日本交通公社、一水会(観光関係団体懇談会)、京都市内博物館施設連絡協議会、文化財保存全国協議会、文化財指定庭園保護協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、文化遺産信託研究会、全国近代化遺産活用連絡協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

③その他

ア) (一財) 地域伝統芸能活用センター感謝の会出席

(一財) 地域伝統芸能活用センターは、30年にわたり実施してきた「地域伝統芸能全国大会」および「顕彰事業」を昨年度で終了したことに伴い、「地域伝統芸能全国大会のフィナーレと感謝の会」を開催し、JNTから理事長と事務局長が出席した。式典では、JNT観光資源専門委員を務める三隅治雄氏をはじめ、事業に貢献した方々に感謝状と記念メダルが授与された。また交歓会では、理事長が高円宮妃殿下にJNTの活動を紹介した。

イ) (公財) ヒロセ財団の留学生受入れ

事業賛助団体であり団体会員でもある(公財)ヒロセ財団の芸術文化交流事業に協力し、駒井家住宅で留学生の受け入れを行った。10月14日~12月2日の期間で18名の留学生が訪れ、駒井家住宅の見学や国際交流を行った。

ウ) (公財) 日本国際教育支援協会の留学生受入れ

団体会員である公益財団法人日本国際教育支援協会が、文化理解促進事業として12月3日に実施した留学生向けスタディツアーに協力した。旧安田楠雄邸庭園を会場として19名の留学生が参加し、ボランティア活動や日本文化の体験実習を行い、日本文化およびJNTの活動に対する理解を深めた。

(2) 国際交流事業

① 海外保護団体との連絡連携および情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナル・トラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を努めた。3月27日に、国際ナショナル・トラスト機構(The International National Trusts Organisation)のキャサリン・レナード事務局長および英国ナショナル・トラストのスタッフ3名が旧安田楠雄邸庭園の見学に訪れた。職員が邸内を案内した。見学後は、懇談の場を設け、情報交換を行い、交流を図った。

② 交流を図っている団体

英国ナショナル・トラスト(名誉会員)

米国ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

オーストラリア・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ニュージーランド・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

クイーンエリザベス二世ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ジョージア州ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

フィジー・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

バミューダ・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

7. その他

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する対応について

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、これまでの対応策を撤廃し、平常対応とした。

(2) 事業賛助等の協力要請について

従来の法人に加え、建設や自動車販売関連等幅広い業界などに賛助依頼を行った。その結果、多くの企業・団体から支援を継続して頂き、新たな協力も得られた。

(3) 職員研修の実施

職員の企画能力向上のための研修を実施した。2か年の研修を通して、JNTのあるべき姿や目指す成果について職員間でディスカッションを行った。本年度は最終年度として長期成果および成果指標を設定し、具体的な実行策について計画を作成した。

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

2023年4月7日

- ・清野 智評議員の辞任(2023年3月31日付)

2023年6月23日

- ・蒲生篤実評議員の就任、梅崎 壽代表理事の辞任、安富 正文代表理事の就任、梅崎 壽理事・岩崎 悟志理事・久保田 穰理事・杉浦 雅也理事・高橋 弘行理事・福本 啓二理事の辞任、安富 正文理事・大路 洋司理事・喜勢 陽一理事・最明 仁理事・榊原 篤理事・羽尾 一郎理事の就任(2023年6月21日付)

2. 届出・報告・申請事項

2023年4月21日

- ・役員変更の届出(内閣府)

2023年6月28日

- ・事業報告等の提出(内閣府)

2023年7月5日

- ・役員変更の届出(内閣府)

2024年3月29日

- ・事業計画書等の提出(内閣府)

参考

アドバイザー名簿 (2024年3月31日現在)

アドバイザー	梅崎 壽	東京地下鉄(株) 名誉顧問
アドバイザー	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道(株) 顧問

(以上アドバイザー2名)

顧問名簿 (2024年3月31日現在)

顧問	石原 進	九州旅客鉄道(株) 特別顧問
顧問	泉 雅文	四国旅客鉄道(株) 相談役
顧問	大塚 雄二郎	大塚化学(株) 特別相談役
顧問	大橋 洋治	ANA ホールディングス(株) 相談役
顧問	尾関 宗園	大徳寺大仙院閑栖
顧問	門脇 邦彦	日本空港ビルデング(株) 名誉会長
顧問	柄澤 康喜	MS&AD インシュアランスグループホールディングス(株) 取締役会長
顧問	小山 薫堂	放送作家
顧問	小山 正宣	前・(公財)日本ナショナルトラスト理事長
顧問	島田 修	北海道旅客鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	須田 寛	東海旅客鉄道(株) 顧問
顧問	田村 明比古	成田国際空港(株) 代表取締役社長
顧問	都筑 豊	東武鉄道(株) 取締役社長
顧問	富田 哲郎	東日本旅客鉄道(株) 取締役会長
顧問	原田 一之	京浜急行電鉄(株) 取締役会長
顧問	伏見 勝	元・報知新聞社最高顧問
顧問	星野 晃司	小田急電鉄(株) 代表取締役社長
顧問	真鍋 精志	西日本旅客鉄道(株) 相談役
顧問	MARI CHRISTINE	異文化コミュニケーター
顧問	宮田 亮平	金工作家(前・文化庁長官)
顧問	宮原 博昭	(株)学研ホールディングス代表取締役社長
顧問	村田 光平	元・駐スイス大使
顧問	山村 明義	東京地下鉄(株) 代表取締役社長
顧問	山本 亜土	名古屋鉄道(株) 相談役

(以上顧問 24名)

観光資源専門委員名簿（2024年3月31日現在）

観光資源専門委員	尼崎 博正	京都芸術大学名誉教授
観光資源専門委員	井手 久登	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	河東 義之	小山工業高等専門学校名誉教授
観光資源専門委員	鈴木 邦雄	横浜国立大学名誉教授・元学長
観光資源専門委員	西村 幸夫	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター教授
観光資源専門委員	三隅 治雄	東京文化財研究所名誉研究員
観光資源専門委員	本中 眞	(独)国立文化財機構奈良文化財研究所所長

(以上観光資源専門委員 8名)